



地域の大人が関わって子どもたちのふれあいを！



▲スタッフの大人に教えてもらいながら竹でつぼうで遊ぶ子どもたち

最近では、核家族化などで地域との関わりが希薄になっ

ていたり、昔と比べて年齢の異なる子どもたちが遊んだりする機会が少なくなっています。緑地域では、地域の大人が関わって、子どもたちのふれあいを目的に「みどり子どもまつり」を5月8日、緑市民センターで開催しました。地域の民生児童委員や社会福祉協議会、野外活動協議会やボランティアが携わって、竹馬や竹でつぼう、



▲この催しは、共同募金の配分金を一部活用して実施されました

続三原郡史編纂の経過と思い

歴史を綴る編纂者の思い

「続三原郡史」編纂委員長の菊川兼男さんが、このほど編纂をふりかえっての思いをつづった本を自費出版しました。この本は『続三原郡史編纂の経過と思い出』と題され、編纂にあたっての情報収集や校正作業の大変さが語られています。

続三原郡史は6人の編纂委員が中心となって、平成16年から約90回の会議を経て、昨

年3月に発刊したもので、昭和50年から市合併前までの歴史が描かれています。菊川さんは、現代の歴史をつむぎ合わせていく中で、正しく史実を残すことの難しさを実感し、自身の経験の後世に伝えることが重要と考え、出版を

決意しました。この本には、歴史を描く上で、地域間のバランスの調整、読みやすい文章表現の使い



▲本はB5版44頁で製本されている

診療所院長大鐘稔彦著「孤高のメス」映画化する

6月5日から全国ロードショー



▲4月18日、大阪での試写会で。大鐘院長(前列中央右)の左が監督の成島出氏

阿那賀診療所の大鐘稔彦院長の著書「孤高のメス」が映画化され、6月5日から全国ロード

ショーとなります。(主演は堤真一、夏川結衣) 原作は地域医療や臓器移植をテーマにした本格医療小説で、生死の境をさまよう目の前の患者を救うためには地位や名誉を捨てることも厭わない主人公麻鉄彦の使命感と信念を軸に、現代医療が抱える諸問題に鋭く切り込んでいます。

大鐘院長は「映画化の話が持ち込まれた時、嬉しくはあったのですが、400字詰原稿で数千枚の長編小説を僅か2時間こそ

この映画におさめることは、至難のわざと思えました。事実、当初送られてきたシナリオは、多くの医療ドラマがそうであるように、医療現場の実情とはかけ離れたものでした。しかし、監督らとの打ち合わせの末、結果的には得心のいくものに仕上がりました。

映画の筋立ては、原作とは趣きを異にしていますが、「メスは扱う外科医によっては、両刃の剣になる」というテーマは一貫しています。俳優陣の好演もあって、胸に迫るものがあります。映画では、私や診療所のスタッフ、友人などもエキストラで出ています。ぜひご覧ください」と話していました。

だんじり祭りの魅力をネットで公開

祭りの写真や動画をホームページに掲載

だんじり祭りの魅力を存分に紹介したホームページ「淡路島のだんじり祭り」、その魅力とは」(http://awajidanjiri.jindo.com)が開設されています。このホームページは、淡路文化協会事務局長の桜井一郎さん(湊)が作成し、檀尻を動く美術館と例え、豪華な刺繍や彫刻の画像、祭りの動画などが公開されています。

桜井さんは、小さい頃から

地元の祭りに慣れ親しみ、20歳の頃から島内の祭りを撮影してきました。昨年、地域の祭りをテーマにした講演会を開催し、参加者から「もっと多くの人に魅力を伝えてほしい」と声があったのがきっかけでホームページを作成しました。檀尻やだんじり唄のルートなどの豆知識や祭りのスケジュールも公開されており、開設からアクセス件数は7000件に達しています。



▲ホームページを公開した桜井さん

うずしおクルーズへ無料招待

日本丸就航10周年

鳴門のうずしお観潮船を運行する「ジョイポート南淡路」が5月13日、小規模多機能施設「風らん」の利用者5人をうずしおクルーズに招待しました。このイベントは同社が日本丸の10周年記念事業として「身近にある世界一のうずしおを実際に観てもらおう」と企画したものです。この日は晴天にも恵まれ、参加者は、クルーズを堪能しました。この事業は来年3月まで、島内の幼稚園や保育所(園)、小・中学校、高齢者施設の利用者を随時招待する予定です。



▲間近に迫るうずしおを堪能する参加者

おめでとう

「みどりの愛護」功労者
国土交通大臣表彰

みどり花時計ビープル(広田)みどり花時計ビープルは、市役所緑庁舎前の花時計を管理や公営団地の花壇の管理指導など、地域緑化に貢献し、このほど国土交通大臣から表彰を受けました。



▲年4回、自ら育苗した花苗を四季に応じて植え替えます

西日本大会に出場

賀集少年野球クラブ



▲全日本学童軟式野球兵庫県大会で準優勝。8月、「大鳴門橋学童軟式野球選手権大会」に出場します

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞受賞

NPO法人「ふるさと応援隊」



▲同団体理事の児玉昌士さん(広田)

ふるさと応援隊(北谷雅良理事長)は農村ボランティアの受け入れや就農支援などを行っています。都市と農村村の交流に貢献したことで、オーライ！ニッポン大賞・審査委員会長賞を受賞しました。同団体は、メンバー10人で倭文にある「薫陶の郷」で活動をしています。

兵庫県功労者表彰

- ◆地域活動功労 野口利宏さん(市)
- ◆土木建設功労 森 長義さん(賀集)

兵庫県知事表彰

- ◆兵庫県都市緑化功労者 あわじオーブンガーデニング実行委員会
- ◆日本ボーイスカウト三原第3団

窯元から発信する、淡路瓦の魅力

淡路瓦400年祭

窯元の汗と土にまみれた姿を肌で感じてもらおうと、「淡路瓦400年祭」が5月1日から津井地区を中心に開催されました。

同祭は、淡路瓦が産業として本格化し、400年目を迎えた記念イベントで若手の瓦職人が企画したもの。瓦の製作現場を見学できる27の窯元巡りを目玉に、瓦産業の魅力と伝統を多くの人に伝えました。

同祭実行員会では、「淡路瓦400年祭をきっかけとして、今後も活動を続け、町おこしにつなげていきたい」と話しています。



▲淡路瓦400年祭の開始を告げる達磨窯での火入れ式に出席した実行委員のメンバー(5月1日)